

「NPO法人とかち馬文化を支える会」

■ 事業者の概要

- 所在地 : 帯広市(西13条南9丁目1番地 帯広競馬場1階)
- 運営主体 : NPO法人とかち馬文化を支える会
- 取組内容(分類) : 馬文化の啓蒙、継承及び醸成
- 【ホームページ】 : <https://www.umabunka.com>
【Facebook】、【instagram】・・・なし



■ 活動経緯・内容

- ばんえい競馬廃止の危機を乗り越えるために尽力した有志が集まり平成19年に設立
- 馬文化の啓蒙普及(馬の出前授業、馬とのふれあい体験、馬学セミナー、馬文化祭り、馬耕技術伝承プロジェクト、馬文化新聞発行)。
- 刑務所及び福祉施設と連携した商品開発並びに帯広競馬場内「リッキーハウス」での商品販売。
- ばんえい競馬支援(東京競馬場イベント、ばんえい十勝フェア、ばんえい教室、ばん馬まつり協力、愛馬感謝の集い、掲示板展、魅力発信映像制作、ばんえいフェアプレー賞創設、ふれあい動物園支援)。
- 馬産支援(共進会支援、草ばん馬支援、繁殖牝馬検診支援)。



■ 行政等とのかかわり

- 帯広市、JRAとのつながりなど補助金事業に関わる。

■ 取り組む際に生じた課題と対応方法

- 馬産家を主体としていた当初会員の高齢化による会員数の減少
⇒馬産家に限らず、全国の乗馬関係者等に人間関係を通じて積極的に宣伝することで、口コミで情報が広まり、新規会員の獲得に繋がっていった。

■ 活動継続の秘訣

- リーダー(専務理事)の馬に対する情熱と役員の高い支援があったため。
- 帯広市など行政との繋がりを持ち、補助金事業に関わる一方で、自らの活動によっても運営資金を確保することに成功してきたこと。
- 競馬場とNPOが連携して活動するというモデルケースになりうる希少性を有していること。
- 将来の起業も見据えた若手の人材育成活動を重視し行ってきたこと。

■ 活動の成果

- ばんえい競馬のPRをはじめ、地域の伝統文化(馬文化)の啓蒙に多大な貢献をしたこと。
- 小学生を対象とする情操教育に貢献したこと。
- 刑務所及び福祉施設と連携した商品開発を行うことで雇用を創出したこと。

■ 今後の展望

- 時代に即し、その時々で求められているものを見極め、柔軟に対応して活動していきたい。
- 教育及び福祉は会の活動の根幹なので継続していく。また、馬耕も後継者が育ち独り立ち出来るよう続けていきたい。
- シニア向けの健康乗馬や、インバウンド向けのばん馬体験なども積極的に行っていきたい。



● まとめ

- 単なるばんえい競馬の応援団ではなく、青少年を対象にした教育文化事業に重点を置くことにより、着実に地域における会の存在意義を高めていったことが長期継続の1つの要因となっている。
- 自主財源を確保しつつ、補助金やJRAの助成による事業に関わるなど、リスクヘッジの観点からも安定した運営資金を確保してきたことも長期継続の1つの要因といえる。
- リーダーが強い熱意を持って活動に取り組み続けていることも長期継続の要因となっている
- 現在、人材を重視し、後継者の育成に重点を置いて活動していることは、今後も長期継続していくための重要な要素と考えられる。



◇お話をいただいた事務局の
旋丸巴専務理事様(R2. 2.7取材)

